社説

波瀾後の覺悟

政府と進歩黨とが中途にして提携を絶つに至りしは我輩の遺憾とする所なれども双方の所見相容れず到底事を共にする能はずとならば是非もなし只此上は互に男らしく擧動して互に面目を全うせんことを望むのみ自由黨が一朝志を失ふや其統一を保つ能はず或は脱黨するものあり又は分離するものありて殆んど收拾す可らざる有樣に陷りしは世人の竊に顰蹙したる所なり今や進歩黨亦將に失意の地位に立たんとす其内には離緣尚ほ早しと考ふる者もあらん或は又一身上種々の事情より當局者と絶つに忍びざる者もあらんと雖も進むときは全黨足並を揃へて進みながら退くときには四分五裂或は降參するものあり或は脱走するものあるが如き寧ろ醜態と云はざる可らず勿論黨議には何處までも服從せざる可らずと云ふは餘りに窮窟なる議論なれども大抵の事は我慢して互に折合ふに非ざれば政黨なるものは到底成立つ可らず人の意見の異なるは猶ほ其面の如し一より十まで思ひのまゝに進退せんとならば始めより黨派などに加入せざるこそ得策なれ其黨に加入したるは人々個々に運動せんよりも相共に團結して事を共にする方便利多かる可しとて即ち小異を捨てゝ大同したるとなれば中途より仲間を脱するは當初の素志に背くものにして假令ひ一時は利益することありとするも永久の利害より云へば恐らくは損毛多かる可し政友には見限られ世間よりは種々の惡評を蒙る其間に身を立てんとするには自ら困難なきを得ず現に方向を變じたる人々の末路を見れば思ひ半ばに過ぐるものあらん進歩黨員に向ては益々隊伍を整へて名譽の退陣を望むと共に政府に對しても聊か注意する所なきを得ず政治家の離合は元と公の沙汰にして私情に出づるに非ざれば其間に一點惜惡の念を挾む可らず提携の時に笑て手を握りしが如く離るゝときにも亦笑て手を絶つこそ男子の本色なれ若しも女々しき根性を起して我に背くなどゝは憎き仕打なりイザ返報せんとて眼に角立て些細の手落をも咎めんとするが如きは只その度胸の狹隘なるを示すのみにして却て敵をして天下の同情を得せしむるものなり從來政治の爭に動もすれば法律を攫ぎ出して或は反對派の運動を妨げんとし又は其新聞紙を苦しめんとしたるは毎度の事にして見苦しき限なれば今後は決して斯の如き小政略を繰返へすことなきのみならず男子の意地としても此際特に奮發して大に爲す所なかる可らず既往の事蹟に徵して現内閣は其宣言を實行するの誠意なきものと認む因て提携を絶つとは進歩黨が天下に宣言する所なり果して其言の如く行政をも依然踏襲する能はず臺灣の不始末をも始末すること能はずんば徒に孺子をして先見の名を爲さしむるのみ世間に對して面目ある可らず特に人材登用の如きは一層盛にして辭職者の後任には自から適當の人を得ると共に其任命も迅速ならざる可らず若しも臺灣總督の更迭談の如く何時までも解明かならざるか若しくは途方もなき人物を採用することもあらんには恰も政府の生地なきを示すものにして只世の物笑と爲らんのみ殊に今回破裂の顛末たる有識者にも諒解を得ずして遂に政府は見苦しき最後を遂ぐるの外ある可らず近頃當局者の意氣盛にして進歩黨、何者ぞ提携を絶たんとならば絶つ可し大隈とても強ひて留めはせずと云はぬ許りの勢なりと云へば其善後策に付ては必ず成算あることならん知事局長等の補缺は勿論、大隈が辭職すれば其後任には何人を以てす可しと胸中既に定まる所あることならん斯くてこそ始めて面目も立つことなれ呉々も狼狽の體なからんことを我輩の切に望む所なり

電報

○清國將校の大演習視察　北京十一月四日午後特發

直隸總督汪文韶氏は今度袁世凱氏部下の將校をして我が陸軍の大演習を視察せしむる由にて當地駐在本邦公使館附武官梶川大尉は右案内の爲め已に天津に向て當地を出發せり清國政府は多分之が爲め軍艦を派遣するならん

○演習東軍の運動　門司十一月五日午前特發

第九旅團兵今朝當地を通過し若松附近に向ふ

○扶桑艦修繕の模樣　松山十一月五日午前特發

扶桑艦修繕の模樣を聞くに浮上がるべき見込ありと云ふ

○扶桑艦異變別報　大阪十一月四日午後特發

扶桑艦異變の模樣を實見したる人より寄せられたる一昨二日付の書狀に據れば同艦は其後晝夜の別なく損所の修繕に從事し居れば四五日中には浮上るべしと又た救助に向ひたる吳丸は暗礁に乘上げ中央部より切斷されたるよし

○長濱港の混雜　大阪十一月四日午後特發

愛媛縣下の長濱港は目下扶桑艦の乘組士官其他海軍々人の來往頻繁なる爲め非常の混雜にて旅人宿の如きは旅客の宿泊を斷はり居るよし

○伏見宮、閑院宮兩殿下　浦和十一月五日午前特發

伏見宮、閑院宮兩殿下には第一師團兵の演習視察として御來縣あらせられたり

○廣幡侍從　熊本十一月四日午後特發

廣幡侍從は縣下水害地の巡視を終り本夕當地を出發して歸京の途に就く

○濱口代議士　和歌山十一月五日午前特發

東京府選出代議士濱口吉右衞門氏は其鄕里なる當地へ來遊中の處本日歸京の途に就く

○自由黨演說會　山形十一月四日午後特發

本日當地に開きたる自由黨の演說會は板垣伯以下無事濟了したり

○水兵の渡臺　長崎十一月五日午前特發

佐世保鎭守府の水兵二十六名本日當地より渡臺す

○鐵道開通式　伊賀上野十一月五日午前特發

本日加茂驛にて關西鐵道上野加茂間の開通式を擧行す

○沖繩丸　長崎十一月五日午前特發

沖繩丸は本日神戸より入港せり

○神戸の在米　神戸十一月四日午後特發

當地の在米は內國米九千百六十二俵、外國米四千四百八十四俵なり

○近松門左衞門の追懷祭　佐賀十一月五日午前特發

昨日唐津に於て近松門左衞門の追懷祭を執行せり

○戊辰戰死者三十年祭　佐賀十一月五日午前特發

本日より向ふ三日間當地に於て戊辰役戰死者の三十年祭を行ふ

○長野の地震　長野十一月五日午前特發

今朝地震あり

○柏崎の地震　柏崎十一月五日午前特發

今朝六時五十分頃地震ありたれども何等の被害なし

○墨國大統領要擊の詳報　在墨國　孤劍生

●●●●●要擊前後の狀況　過日西班牙首相カノーバス氏無政府黨員の毒刄に斃れ次いで南米ウルグー國の大統領も兇徒に殺され天下の王公將相をして心膽を寒からしめたるに當りて十數日前當墨府の無政府黨員の捕縛あり人心自ら恟々たる折柄遂に又一個の暴漢は白晝衆人環視の間に現れ出でゝ大統領デヤス將軍を要擊したり去る九月十六日は墨國獨立紀念日の事ゆゑ當日午前九時半大統領は內閣員を率ゐアラメダ公園內の式場に臨まんと徒步政廳を立出で沿道の兩側には既に群衆堵を成し兵士は嚴重に往來を警戒したり大統領は大禮服を着け胸間に各國帝王より贈られたる無數の勳章を輝かし步武整々としてサンフランシスコ街を過ぎ路を斜に取りてアラメダ公園に入り來りたるに此處兩側の群衆は恰も溢るゝが如く爲めに大統領一行の路幅も少しく押狹められたる有樣にて此邊は士官學校生徒一同が警戒の任務に當り居たれば力の限り群衆を制して一行の經過を待受け大統領は右に外務大臣マリスカル氏を伴ひ左に軍務大臣ベリヲサベル將軍を隨へ漸く同公園の入口左右に銅製獸王獅子の屹立せる間まで其足を運ぶや忽ち群衆の中より一個の暴漢は警戒を破つて突進し大統領の後邊に從ひたるフラデ將軍及モナステリオ水師提督(同提督は昨年墨國軍艦サラゴサ號船長として本邦に來りし人)との中間に割入して鐵拳を揮て後より大統領の頭部を二たび亂打したれば大統領の帽子は

地上へ落ちたり斯
たる杖を以て暴漢
早くも杖片を拾ひ
て痛く暴漢を打ち
て同將軍に打掛り
び擊つて暴漢を地
警へんに物なく群
競ひ掛つて之を捕
子も無く大尉ラク
發なき樣注意すべ
みたり暴漢は警官
られ警官兩名左右
氏先に立ち警官
護送せんとするに
險謂はんかたなく或
者あれば或は匕首
復讐せんと云ふ者
くも之を擁護して
に別に兇器とては
數品其他雜品數個
かば直ちに之を
たび傳はり忽ち滿
統領が式場を去
人民雲集して路
せる熱心は蓋し
●●●暴漢の素性　暴漢
裝は中等にして
り年齒方に卅一
賤ならず幼にして
學業偏門にも在
ふ去れど幾くも
て鄕黨の評判甚
府內に開店せし
主と爭論の末短
時暴漢は法廷に
律を學びし爲め
を憂ひて遂に病
るのみならず反
嘗て造し遂に父を
父死するの後は
を毆打し路上に
たる等亂暴甚しく
人物にして此兇
が如しと雖も去
の一身に危害を加
後難を廻らさず
自業自得と評す
●●●暴漢の目的　兇行
所に訪ひ大統領
答へて曰く予は
を贈せんと試みた
辱を受くるに至
ど暴漢は元來
も無かる可く又
其當時毫も酒氣を
帶せざりし點より

福翁百話第五版發行
福翁百話第五版發行
正價は上製一圓郵税十錢並製卅五錢郵税六錢
何れも福澤先生自筆の題詩
寫眞版入りにて特に上製には先生の風采を窺ふ可き今昔の肖像二葉を添へたり
發行所は時事新報社、賣捌所は大阪出張所を始め全國各地時事新報賣捌店及各書林
福翁百話第五版發行
福翁百話第五版發行